

# 「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際的研究 — 言語障害教育の専門性の活用 —

## 【背景と目的】

我が国の言語障害教育は「ことばの教室」における実践を中心に発展してきた。しかし、ことばの教室は担当教員の入れ替わりが激しい実態に加え、ことばの教室担当教員が一人の場合も多く、日常的に教員同士で指導法等について学び合うことが困難な状況がある。また、子どもの成長・発達過程での課題は、ことばの遅れやコミュニケーションのとりにくさ等の「ことば」の側面に現れることが多い。そのため、ことばの教室が地域の相談・支援の窓口としての機能をもっている状況もあり、その専門性への期待は大きいと考えられる。

そこで、本研究では、①言語指導等の専門性の維持・向上・継承をどのように図っていくのか、その方策を明らかにすること、②ことばの教室が地域においてインクルーシブ教育システム構築にどのような役割を果たせるのか、言語障害教育の専門性の活用の観点も含めて検討・整理することを目的とした。

## 【方法】

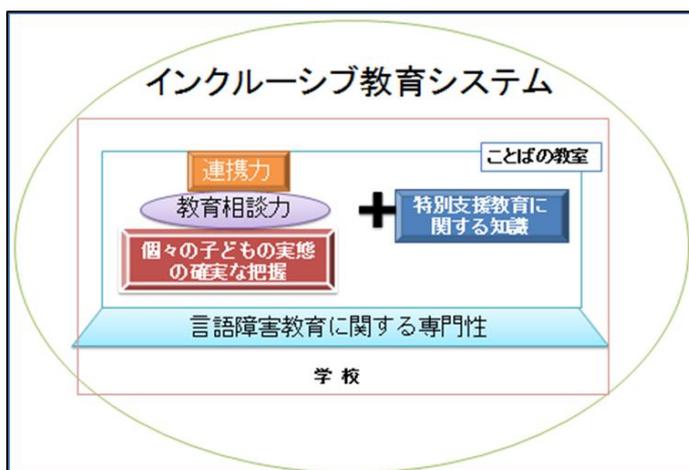
- 各都道府県の言語障害教育研究組織への調査
- 担当教員との意見交換会
- 文献研究（言語障害教育関係の研究発表や研究集録等）
- 実地調査等による資料の収集と分析

## 【結果と考察】

専門性の維持・向上・継承に向けて多く実施しているのは研修会である。言語障害に関する障害種別の知識や指導技術が挙げられていたが、それに加えて他障害に関する知識、子どもの見方、発達や心理等に関する幅広い内容が研修会の中で取り上げられていた。研修会以外の工夫は、下表に示すような事項があった。

**表 専門性の維持・向上・継承に関する方策一覧**

研修会の持ち方の工夫	対象	所属者全員 経験年数別による ・初任者 ・3年未満の担当者
	内容	障害種別（構音障害・吃音・ことばの遅れ）指導方法
		子どもの見方・とらえ方
		保護者とのやりとり（教育相談の内容）
		担当者の関わり方（言葉がけや態度）
		生理的・医療的な事項
	形態	教材の紹介と活用
		講義
		演習 グループ討議
	方法	指導場面のビデオ視聴による協議や検討
近隣の教室との合同研修会・事例検討会		
入級審査会の際に経過報告をして検討		
先輩（ベテラン）教員の授業参観 専門家の招聘		
研修会への関わり方の工夫	役割分担	3年たった実践発表の候補、5年たった講座の講師の候補、10年たったアドバイザーとしている
	自己啓発	自ら調べて、実践して報告するように仕向ける
研究組織の運営の工夫	ブロック	ブロックごとに研修を実施し、個別の具体的な質問や要望に対応する 県全体の研修会の開催にあたってブロック別に役割を分担する
	委員会	研修、広報等の委員会を設置して活動することで担当者の交流が深まる
	会員名簿	連絡や情報交換がしやすくなる
	校長	担当者の研修会への参加のしやすさ
研修会以外の工夫	要覧	県内の設置校、教育課程（時間割）、担当者について年度総会に配布
	指導事例集	担当者全員が、1年間担当した子どもについての指導事例を執筆する



**図 インクルーシブ教育システムの構築に向けた  
ことばの教室の機能**

ことばの教室の専門性は、言語障害独自の専門性が基本にありつつも、個別的な対応による子どもの実態把握をする力量、子どもが在籍学級で生き生きと生活できることを目指した在籍学級との連携など、幅広くとらえていくことが必要と考えられた。これらの活動は、担当教員の教育相談力を高め、個々の子どもの実態の確実な把握につながっていると考えられ、個々の教育的ニーズに応じる視点や特別支援教育の視点をもち、保護者や通常の学級担任及び他機関等との連絡調整をする能力等が、活動に生かされていると考えられた。これらの活動と力量がインクルーシブ教育システムの構築に向けて、重要な役割を果たしていると考えられる。 【言語班】